

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査結果

【国語科】

- 平均正答率は、千葉県・全国と比較し、上回っており、特に「書くこと」「読むこと」がよくできています。
- 文章を読んで理解したことを基に、根拠を明確にしながら自分の考えをまとめることができます。
- △文脈に即して適切な漢字を書くことに課題があります。学習した漢字を短文作りなどで実際に使う機会を増やす必要があります。
- △比喩や反復等の表現の工夫と、その効果についての理解に課題があります。表現の工夫を捉えるだけでなく、文章作りや発表等で実際に活用する機会を増やす必要があります。

【算数科】

- 平均正答率は、千葉県・全国と比較し、上回っています。
- 「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」の各領域では、全国及び千葉県の平均を上回っており、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いています。
- △表やグラフから必要な情報を読み取り、数値を根拠として特徴や傾向を自分の言葉で考察し、説明することに課題があります。
- △百分率や割合の意味を十分に理解し、基準量を捉えながら数量の関係を数直線や言葉の式等で表すことに課題があります。また、児童の学力の二極化も見られることから、一人一人の習熟度やつまずきに応じた指導・支援と、発展的な課題を通して学びを深める授業づくりが必要です。

【質問紙】

- 「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立つ人間になりたい」と考えている児童が多く、自分の将来や周囲の人との関わりについて前向きに考えています。
- 国語や算数の学習が、将来や社会に出たときに役立つと考えている児童が多く、学ぶことの意義を実感しながら学習に取り組んでいます。
- △自分の学習を振り返り、分かったことや分からなかったことを次の学習に生かすことに課題があります。教師の助言や支援を生かすことができているので、今後は自ら学び方を振り返り、次の学習につなげる力を育てていきます。
- △「自分と違う意見について考えることが楽しい」と感じている児童が、やや少ない傾向にあります。友達の様々な考えに触れ、それぞれのよさや違いに気付きながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう、対話や交流を生かした学習を充実させていきます。

2 結果を踏まえた授業改善

国語科では、語彙を「知っている」だけでなく、実際の学習や生活の中で「使える」ものを目指すとともに、「結論・根拠・解釈」を意識して自分の考えを整理し、相手に分かりやすく伝える活動を充実させていきます。

算数科では、加減乗除などの基礎的・基本的な力を確実に身に付けるとともに、図や式、表、グラフ、言葉などを用いて考えたり説明したりする活動を充実させていきます。特に、割合やデータの活用では、公式や手順だけでなく、その意味を理解することを大切にしていきます。

志津小全体で思考ツールや ICT を効果的に活用し、自分の考えを整理したり、友達と比較・共有したりする学習をさらに推進していきます。知識や技能を身に付けるだけでなく、「なぜそう考えたのか」「どのように伝えるか」を大切に、考えを深め、表現する授業づくりを進めていきます。